

令和 7 年 5 月 14 日

第 13 回（2025 年度）学校関係者評価委員会報告書

学校法人 立志舎
日本動物専門学校
学校関係者評価委員会

自己点検・自己評価実施委員会が作成した「令和 6 年度自己評価表」を基に学校関係者評価を行いました。その結果を以下の通り報告いたします。

1. 第 13 回（2025 年度）学校関係者評価委員会

< 委 員 >（五十音順）

川口 雅章 氏 一般社団法人全国ペット協会 副会長
北村 啓 氏 株式会社荏谷動物病院グループ 管理部・人事労務課長
近藤 大 氏 株式会社 Dog Nit's 代表取締役
山崎 勇作 氏 立志舎高等学校 事務長

< 事務局 >

早川 慎二 日本動物専門学校 校長
依田 実 日本動物専門学校 教務部課長

2. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

項目	評価・意見
基準 1 教育理念・ 目標・育成 人材像	大項目総括 本学は、教育基本法および学校教育法に基づき、動物に関する専門知識、職業遂行に必要な知識および人間と動物が共生できる確かな技術を授け、併せて豊かな人間性を養い、社会に貢献しうる有能な人材を育成することを目的とする。これを実現するためにカリキュラム会議において外部委員の意見を参考にし、カリキュラムの編成や新コースの検討などを行っている。理念・目的・育成人材像は、教職員・学生にも周知徹底しており、学外にも広く公表している。 本学の特色は、独自の教育システムである「ゼミ学習」を導入していること。また、動物およびビジネスに関する資格を取得し、実習を行うことにより幅広い知識や技能を身に付け、動物業界のみならず異業種企業等に就職していることである。 学校の将来構想について、既存校の経営状態や社会のニーズ等を精査し、拡大縮小戦略を立てることで、安定した経営基盤作りに努める。 特記事項 「学生から信頼され支持される学校づくり」を学園の基本目標として教職員一丸となって学校運営に取り組んでいる。また、開学以来「ゼミ学習」という本学独自の教育システムを導入しており、明るく楽しい学園生活と資格取得実績、動物系企業をはじめとする民間企業等への就職実績が両立している。

	基準1について委員の方々から、次の質問・意見があった。 (1) 実習と座学の割合はどのくらいか。 【回答】コースによって異なるが、平均すると半々。検定試験前1週間は検定対策を行い、座学の割合が増える。 (2) 動物業界に就きたいという中学生も結構多くいる。これからも伸びる業界であるため、就職率100%を目標に引き続き取り組んでもらいたい。
基準2 学校運営	大項目総括 学園の基本目標として「学生から信頼され支持される学校づくり」を掲げており、教務室、事務室、就職相談室、受付などに掲示している。 事業計画としては、学校の将来構想について、既存校の経営状態や社会のニーズ等を精査し、拡大縮小戦略を立てることで、安定した経営基盤作りに努める。 運営するための組織図があり、それに従って運営されている。各部署には学校の目標達成のために数値目標が明確にされており、各部署の役割と権限、人的体制が整っている。運営組織や意思決定機能は効率的なものになっている。 また、就業規則、育児休業規程、介護休業規程、母性健康管理のための休暇規程、通院休暇規程、給与規程、法令遵守規程、ストレスチェック制度規程、ハラスメント防止規程などの諸規程が整備されている。 日常的な意思決定は、管理職がしている。学校間の調整は運営本部または部次長会議で行っている。理事会、評議員会、部次長会議、校長会、責任者会議、課会議、といった意思決定プロセスが制度化され、その権限を明確にしており、意思決定システムは確立されている。 情報システムについては、学務システム（入試システムおよび学籍管理システム）、経理システムを個々に運用しインボイス制度に対応している。なお、就職部は求人情報と学生情報をデータベース化して業務の効率化を図っている。在学生への求人情報の提供、学校が取りまとめる求人への申込をオンライン化し、「民間就職支援ポータルサイト」として運用を開始している。 特記事項 本学独自の教育システムである「ゼミ学習」を通じて、資格取得、就職および明るく楽しいキャンパスライフの3本柱を追求することにより「学生から信頼され支持される学校づくり」が実現されている。 人事制度、働き方、職場改善などについての提言をまとめるため、人事制度プロジェクトを立ち上げ、定期的に会議を開催している。 学務システムは、仮想プライベートネットワーク（VPN 網）を全拠点で結び、セキュリティを強化して運用している。また、全教職員にパソコンを貸与し、業務改善に取り組んでいる。 基準2について委員の方々から、次の質問があった。 (1) 民間就職支援ポータルサイトとはどのようなものか。 【回答】立志舎の学生専用のいつでもどこでも求人情報が閲覧できるサイトである。日々更新されている求人情報をデータベース化し、自宅でも閲覧できるようにしたことにより、保護者も一緒に情報を確認することができ、就職活動に対する安

	心感にも繋がっている。 (2) 学生情報をデータベース化したことによって、就職支援の業務効率化にどのように活かされているか。 【回答】出席状況や成績、資格取得だけでなく、就職に対する悩みや日々困っていることなどの学生情報をデータベースに入力している。これを職員全員で共有することによって、各々の学生の就職に対する状況が把握でき、細やかな就職指導に繋がっている。
基準3 教育活動	大項目総括 本学では、目標とする資格や技術を明確に定め、その習得がより確実になるようなカリキュラム編成をしている。また、学内就職セミナー等で企業から回収したアンケート回答を基にした「企業が求める人材像」を学生に明示しており、学生が専門的知識や技術を持った上で、動物関連業界を中心に多岐にわたる業界や職種の人材ニーズに対応できる教育を実践している。教務内容は、動物関連業界からの人材ニーズに対応すべく設定し、修業年限で、業界が求めるレベルに到達することを可能にしている。カリキュラムは、学科で目標とする資格の取得および社会のニーズに対応するために、必要な科目を体系的に編成している。その際、年2回開催する教育課程編成委員会での外部委員の意見を参考に、カリキュラム作成委員会において社会のニーズに対応するために、必要な科目を体系的に編成している。また、カリキュラム会議において、定期的に見直しを行っている。各科目のシラバスを作成し、カリキュラム編成においても目標達成のため科目の適正な配置を行っている。新入生就職セミナーを実施し、ビジネスマナー、就職ゼミナールやインターンシップなどの科目を設置している。また、企業の人事担当者を招く学内就職セミナー等では、求められる人物像などの説明を直接学生にしている。平成26年度に文部科学大臣が認定する職業実践専門課程制度が発足して以降、本学は職業実践専門課程の認定を受け、企業等と連携して実践的な演習・実習を行っている。しかし、社会の人材ニーズや指導方法などの検証は継続していく必要がある。授業運営の適否を判断し、授業システムの見直しをするため、学生による授業評価アンケートを実施するとともに、教育課程編成委員会での外部委員の意見を取り入れている。学科の育成目標に向け授業を行うことができる教員として、専門性、人間性、教授力、必要資格等の諸要件を備えた人材の確保はできている。教員の専門性や教授力等を常にレベルアップするため、年間を通じての自己啓発研修、企業等との連携により最新の動向を取り入れる研修を行っている。さらに、教員の専門性や教授力をより客観的に把握するため学生による授業評価アンケートを実施している。教職員・非常勤講師の協業システムを構築するため業務終了時には業務報告を受け、役割分担のため校務分掌一覧を作成し、お互いの協業システムを構築している。学生の成績評価および単位認定については、その基準を明確に定め、学則、専門課程便覧などで学生にも周知徹底し、厳正に行っている。また、成績評価、GPAの算定については本学ホームページ上にも公開している。しかし、他の高等教育機関の科目との互換性については、まだ基準が整備されていないため、検討し規定する必要がある。コース毎に目標とする資格を明確に定め、その取得がより確実になるようなカリキュ

	ラム編成をしている。そして、試験の都度カリキュラム会議を開き、次回に反映させるようにしている。 特記事項 学生は、学内就職セミナー等で希望する会社の人事担当者から「企業が求める人材像」などの話を直接聞くことができる。2024 年度における学内就職セミナーは、令和 7 年 2 月 6 日・7 日に開催予定した。 「愛玩動物看護師法」の成立に伴い、令和 4 年度から動物看護学科 3 年制を新設し、愛玩動物看護師養成所として指定認可を受けた。 本学の授業は開学以来、ゼミ学習方式を採り入れており、知識をより確実にするばかりでなく、積極性、協調性、表現力、コミュニケーション能力などの人間性をも涵養している。 例年実施する新入生就職セミナーでは、挨拶の練習、学生と社会人の違い、事例研究等を通じ、社会人に向けての意識付けをしている。1 年次には、約 1 週間のインターンシップを企業等と連携し行っている。 在学期間中限定で利用できる Microsoft365 のアカウントを配布し、Microsoft Teams を利用したオンライン授業を行える教育サポート体制を整えている。 令和元年度より GPA 算定をするため、システムを改修し導入した。GPA の算定については、ホームページ上にも公開している。 基準 3 について委員の方々から、次の質問があった。 (1) 学内就職セミナーには、どのくらいの企業が参加されているのか。 【回答】 今年 1 月実施の参加企業は、23 社である。 (2) 犬の幼稚園などのドッグトレーナー職の企業は参加されているか。 【回答】 ペットの専門店コジマなど、ドッグトレーナー職も求人している企業の参加はあるが、ドッグトレーナー職だけを求人している企業の参加はない。ドッグトレーナーを目指す学生のためにも、求人開拓を行う必要がある。 (3) 学生による授業評価アンケートは、どのようなものなのか。 【回答】 無記名で、約 20 ある項目を 5 段階で評価をしてもらっている。アンケート結果は、過去 3 年分の比較をしながら結果が平均 4 以上になるように目指している。 (4) 御校の学生はインターンシップ実習に来るととてもしっかりしている。他校では挨拶が出来ない学生などもいるが、新入生就職セミナーのようなビジネスマナーのセミナーは年に何回実施されているか。 【回答】 年に 3 回実施している。4 月、10 月、1 月に実施し、1 月末のインターンシップに向けて取り組んでいる。また外部講師を招き、自己理解セミナーやメイクアップ講座なども行っている。
基準 4 学修成果	大項目総括 本学では、就職率 100%を目指している。就職部担当者と各クラス担任が連携して学生の指導にあたっており、動物系企業を中心に、民間企業にも正社員として多くの学生が就職している。 資格取得については愛玩動物飼養管理士認定試験、愛玩動物看護師試験、全日

本グルーミング検定試験、ドッグサイエンスアドバイザー試験、ビジネス能力検定試験（ジョブパス）、家庭動物管理士試験、ペットフード／ペットマナー検定等において資格取得および試験合格率の向上を図っており、今年度も順調に合格者を輩出している。また、各検定試験において制度改正がある場合には、その内容にすぐに適応できるように体制を整えていく。

卒業生は本学で養った専門知識や技術、豊かな人間性を生かし、広く社会で活躍している。卒業生の社会での活躍を在校生や入学志望者にも知らせる必要がある。在学生も高齢者施設でのドッグセラピーなどの学外活動で高い評価を得ている。

特記事項

新入生就職セミナーをはじめ、進路決定ガイダンス、自己理解セミナー、リクルースタイル講座、学内就職セミナー、インターンシップを行っている。

学内就職セミナー等には多数の企業等に参加していただいている。（注）

コース毎に目標とする資格を明確にし、過去の経験に基づき綿密なカリキュラムを組み立て、ゼミ学習で授業を進めている。その結果が成果としてあらわれている。

また、学園内各校と定期的に合格率向上を図るための会議を開いている。

＜資格取得実績の報告と、就職実績の報告があった。＞

基準4についての補足事項

愛玩動物看護師国家資格について、昨年度は、日本動物専門学校は 86.05%、専門学校日本動物 21 は 86.55%であった。目標は 100%であるが、動物病院へ就職しない学生も受験しているため、そのような学生への受験に対するモチベーションが課題である。

基準4について委員の方々から、次の質問・意見があった。

(1) 人気の動物病院の傾向があれば教えてほしい。

【回答】人間関係を重視している学生が多く、インターンシップで病院内の雰囲気を見て決めることが多い。またその次に福利厚生を重視している。

(2) 10年ぐらい採用に携わっているが、学生の志望動機も変化している。10年前は知識の探求が志望理由になっていたが、最近は家から近いなどの理由が多くなってきている。時代に合わせて対応する必要がある。

(3) ドッグセラピーはどのぐらいの頻度で行っているか。

【回答】授業の一環として、月2回実施している。高齢者施設への訪問の他、保育園の園児に本校へ来てもらっている。

(4) 動物の就職に関して、どの分野の求人数が多いのか。

【回答】動物病院、トリミングサロンの求人数が圧倒的に多い。ドッグトレーナー職の求人は、その2つと比べると少ない傾向にあり、就職活動も苦戦している。求人開拓をしていかなければならない。

(5) 全日本グルーミング検定に3つの区分があるが、どのように分かれているか。

【回答】ベーシックは、チワワやダックスフンドのようなカットがない犬に対してのグルーミングである。スタンダードは、トイプードルをケネルラムクリップに

	カットする。エキスパートは、シュナウザーやシーズーなど様々な犬種のカットをする。
基準5 学生支援	大項目総括 就職相談室を設け、就職担当者およびクラス担任が学生の就職相談、履歴書の書き方、就職先の選択、企業訪問、面接対策、インターンシップなどの指導を行っている。また、企業の人事担当者を招き学内就職セミナー等を実施している。 一人も退学者を出さず入学した学生全員を卒業させることが最終目標である。そのために担任をはじめ教員が学生全員に目を配り、声をかけて退学率の低減に努めている。 学生は、様々な悩みを持っており、それらの相談はまずクラス担任にするが、クラス担任に話せない事柄もあり、その時は、学生相談室が設けられているので、学生は相談室の担当者に相談している。 学生の学業を全うさせるため、経済的諸問題の解決を支援する必要がある。そのために、特別奨学生試験、各種特待生制度や学費延納制度などを設けている。さらに、令和2年度よりスタートした高等教育の修学支援新制度対象校として東京都より確認されており、引き続き令和7年度も確認されている。 学校保健安全法に基づく健康診断を全学生に実施している。また、学校医が学生からの健康相談などに応じている。 野球部、サッカー部、バスケットボール部、バレーボール部、テニス部、バドミントン部、応援団、チアリーディング部、ドッグスポーツクラブなどのクラブ活動や体育祭、学園祭、球技大会などの課外活動が盛んであり、学生主体で実施し、教職員が助言、指導をしている。 遠隔地出身者のための学生寮などの学生に対する生活環境支援は必要である。本学では学生寮運営に実績のある会社の寮を学校提携寮として学生に紹介している。また、学生マンションの企画、管理、仲介を全国的に行っている企業と業務提携をしている。 学生に対して適切な指導、相談を行うためにも、出席状況、成績表を年に2回、学生相談室、就職相談室のお知らせ等を保護者に送付している。また、必要に応じて保護者と面談をし、学生の指導に役立てている。その内容は学務システムに記録している。 同窓会の組織化、卒業生のフォローアップ体制の整備ともに今後検討すべき課題である。卒業後の再教育プログラムの整備、社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備についても今後検討すべき課題である。 特記事項 学生の希望に沿ってインターンシップを実施している。これにより、ペットサロン、動物病院、ペットショップ、犬の訓練所をはじめ動物業界の就職先開拓につながっている。 民間就職支援ポータルサイトを運用し、求人票のリアルタイムの閲覧、エントリーの一元化、就職部と学生の連絡手段の新設により学生が就職活動をスムーズに行えるようにしている。 学生相談室は、匿名での電話相談にも応じている。また、オンライン相談窓口も設けている。 日常コミュニケーションチェック表を用いて、学生の様子を毎日記録している。 本学の特別奨学生試験や各種特待生制度は貸与ではなく学費減免である。 校舎入り口や教室、廊下、トイレに消毒剤などを設置し、手指を消毒すること

	で、各種感染症の予防を行っている。また、インフルエンザが流行する時期は、罹患状況を把握し、感染拡大防止のための措置（学級閉鎖など）を行っている。 保護者からの相談はクラス担任だけでなく、学生相談室や就職相談室も利用できるようになっている。
基準 6 教育環境	大項目総括 施設・設備は学生に教育上支障がないように整備されている。パソコンは、5年毎に更新しているが、その他の施設・設備の更新計画は、現在立てていないので、パソコン以外の施設・設備の更新計画を立てることを検討する。 ペットイベントへの参加、ドッグショーなどの見学、犬の訓練施設見学、動物施設等の学外実習、インターンシップ、高齢者施設でのドッグセラピー活動、海外ペット研修を実施するなど十分な教育体制を整備している。 防災指導担当者を校務分掌一覧に規定し、定期的に避難訓練等を実施し、教職員、学生に防災に対する意識の喚起を行っている。また、自衛消防隊を組織している。さらに、危機管理マニュアルを整備し、教職員に周知徹底を図っている。 X線装置を専用室で防護ボックス内に設置しており、定期的に漏洩検査を行っている 特記事項 校内のWi-Fi環境を整備し、学生たちに快適なインターネット環境を提供している。 海外ペット研修については、新型コロナウイルスの影響以来、研修が休止されているが、研修再開に向けて国内外を問わず計画・検討中である。 危機管理マニュアルを法令に従って見直していく必要がある。 基準6について委員の方から、次の質問があった。 (1) 新型コロナウイルスの影響で海外ペット研修が休止していたが、今現在も実施出来ていない理由はなにか。 【回答】以前受け入れてもらっていた施設の閉鎖や、受け入れが出来なくなっている状況であり、現在は国内外問わず研修先を検討中である。
基準 7 学生の募集 と受け入れ	大項目総括 入学案内書やガイドブック作成にあつてはその内容や表現において真実性、明瞭性、法令遵守が必要であることを認識し広報を中心に作成している。そのために具体的な数字を示すことや、掲載にあたっては、本人の了承を得て氏名のイニシャルを公表することにより志望者や保護者の方からの信頼を得られる内容になっている。高校を卒業後すぐに入学される方が多いのでその点にこだわった表現にもなっている。少子化時代にあり募集定員を満たすことが難しいが、今後も志望者のニーズに合わせた学校運営を行っていく。 入学選考は東京都専修学校各種学校協会の規定に沿って作成した募集要項により適正に選考を行っている。提出された入学願書の志望理由を中心に調査書・成績証明書も参考にして本学教育内容の理解度や今後の熱意を把握し可否の判定をしている。 学納金に関しては学校に財政基盤の問題が出ないように適正かつ妥当な金額

	に設定されている。 特記事項 本学のホームページは、スマートフォンへの対応も行っているので、スムーズに情報が入手できる。また、LINE、X（旧 Twitter）、YouTube、Instagram を利用した情報提供を行っている。 オンラインによるオープンキャンパスや進路相談会を行っている。 AO入学に関しては本学のアドミッションポリシーを基準として面談を行っている。本学の理解度、今後のやる気を中心に可否の判定を行っている。 留学生に関しては専門の職員を置き、留学生全員に書類選考と併せて日本語筆記試験、作文試験、面接試験を行い日本語能力、経費支弁能力、日本語学校の出欠席などをもとに入学選考を適正かつ公平に行っている。 法人単位での財務情報の公開体制を採っており学納金が適正かつ公正に使用されていることを明らかにしている。 基準7について委員の方々から、次の意見・質問があった。 (1)御校の Instagram や YouTube を見たが、他校のものと比べてやらされている感がなく、学生が活き活きとしている様子が見られ、募集する立場からすると大変参考になった。 (2)少子化によって全体的な学生数が減少している中で、募集活動を行っているが、大学との差別化や独自の強みなどはあるか。 【回答】企業や官公庁、マスコミとの連携や、小学生や中学生など未来の入学者への繋がり、また地域や地元と繋がっていくことである。今後さらに繋がりを開拓し、面白いコラボレーション企画を実施し、地域等に還元していき、お互いにウィンウィンな関係を築いていきたい。
基準8 財務	大項目総括 近年の定員充足率の減少傾向に的確に対応するためにも、中期的な入学者数の予測や事業計画との整合性の十分にとれた実効性のある中期計画策定が望まれる。 事業活動収支差額の状況、主要な貸借対照表比率等から判断するに、今後、財務基盤の安定化にさらに努めていく必要がある。 予算の編成および執行に関する規程は、寄附行為、経理規程に定められている。予算の編成は適切な手続きを経た上で確定し、予算を執行している。 法人寄附行為に基づき監査を実施し、その結果は監査報告書に記載し、理事会および評議員会へ報告している。 財務情報の公開は、私立学校法の規定に基づき財務情報公開規程を定め、開示請求に対応する体制を整備するとともに適切に公開している。
基準9 法令等の遵守	大項目総括 「学生から信頼され支持される学校づくり」を基本方針に、法令遵守規程を作成し、教職員に徹底している。さらに必要に応じて研修等に派遣したり、資料を配布するなど、法令、設置基準を遵守するための施策として法令遵守規程を作成し実施している。

	個人情報保護に関しては、個人情報保護規程（個人情報保護指針）、プライバシーポリシーを設定している。学校の保有する情報を委託業者に取り扱わせる際も覚書等で保護の徹底を行っている。 「自己点検・自己評価委員会」を設置し、私立専門学校等評価研究機構の基準により点検、評価を行っている。 学校情報は、文部科学省のガイドラインに従い、ホームページにて公開している。 特記事項 法令遵守推進管理者をおき、法令遵守規程に基づき法令遵守の推進を図っている。また毎年、外部講師を招いて人権研修を実施している。2024 年度は令和 6 年 1 2 月 2 4 日（火）に受講した。 学生の個人情報を利用する場合には、教職員より学生に趣旨を説明し、文書にて承諾を得た上で、個人情報を取り扱っている。しかし、定期的に情報セキュリティ研修を実施する必要がある。 自己評価表はホームページに公開するとともに、学校関係者評価委員会で報告し評価をいただき、その結果もホームページに公開している。
基準 10 社会貢献・地域貢献	大項目総括 地域との連携、交流などが社会貢献となり、学校の発展につながるという観点で、高齢者施設でのドッグセラピー活動や、家庭飼育犬をモデル犬として無料でグルーミングを行っている。また、学園祭では地域住民の方を招待し地域活性化に協力している。さらに、獣医師向け勉強会の開催場所の提供や犬猫の譲渡会を校内で行った。 学生のボランティア活動を奨励、支援し、その活動状況を把握し評価しており、学生の校舎外の近隣清掃の実施や、犬猫の譲渡会を校内で実施し、学生がボランティアスタッフとして参加している。今後は、動物の殺処分減少のためのボランティア活動を、東京都動物愛護センター、さいたま市動物愛護ふれあいセンター、公益財団法人神奈川県動物愛護協会などとの連携が可能かどうか検討していく。 特記事項 近隣住民を招いて、家庭でできるアロマオイル製作・ドッグマッサージ体験、爪切り、耳掃除などのグルーミング体験などの講習会や NPO 法人と協力し犬猫の譲渡会を実施した。 今後もこうした活動を教員、学生と共に地域住民と交流を図ることにより、社会貢献につなげていく。 地元開催イベントの参加など、学生を中心とした地域交流を今後も積極的に行っていく。 基準 10 についての補足事項 専門学校日本動物 21 が墨田区とペット防災の協定を締結したのと同様に、杉並区との協定が締結できるよう区議員との話し合いを始めた。練馬区とペット防災のイベントを開催する予定である。

	基準 10 について委員の方から、次の意見があった。 (1) ドッグトレーナーの仕事として、犬へのトレーニングの技術も重要だが、飼い主に話したり教えたりする経験がさらに重要である。様々なイベント等を通じて、そのような機会が多く設けられているのは学生にとってとても良い。今後もさらに増やしていただきたい。
--	---

〔総括的な意見〕

- (1) 時代に応じて様々なことに柔軟な対応をしているという印象を受けた。学生の母数がさらに減少していく中、これとどう向き合っていくかが企業を含め課題であると考ええる。
- (2) 地域貢献など今後も続けていただきたい。またゴミ拾いなどは、学校犬の散歩とともに行うのもよい。犬との散歩は、近隣住民からの苦情などで行きにくい状況もあるが、ゴミ拾いも兼ねることで犬の散歩へのイメージアップや地域貢献に繋がると思う。
- (3) 学校運営において、近隣住民の理解は必要。社会貢献は今後も増やして行ってほしい。スクールカウンセラーの導入などを行うことによって、教職員のストレスや業務負担を軽減し、より学生指導の充実を行い、より良い人材を育て社会に送り出していきたい。